

学会誌の投稿要領

投稿規定

1. 投稿者には会員が一名以上含まれなければならない。
(ただし、依頼原稿はこの限りではない。)
2. 原稿の種類は原著論文、研究ノート、総説、解説(以下、これらを「種別 A」と称す)、技術・調査報告、論説・評論、討議・コメント(以下、これらを「種別 B」と称す)、記録・報告、書評、新刊紹介、会告、お知らせ、その他とし、未発表のものに限る。ただし、JSTが運営するプレプリントサーバ(Jxiv [ジェイカイブ])に投稿した原稿を投稿する場合に限り既発表でも認める。
3. 原稿提出期日は随時であるが、討議・コメント原稿の受付は、その対象論文掲載後6ヶ月以内とする。
4. 原稿は和文もしくは英文とする。
5. 原稿の採否は編集出版委員会が決定する。なお、編集出版委員会が審査員の意見に基づいて原稿の加筆、訂正、削除を求めることがある。
6. 原稿の長さは原則として、すべてを含む刷り上がりページ数が以下のものであることが望ましい(和文の本文1ページは原則として23字×45行×2段組である)。
 - 原著論文……………10 ページ以内
 - 研究ノート……………4 ページ以内
 - 総説……………10 ページ以内
 - 解説……………10 ページ以内
 - 技術・調査報告…6 ページ以内
 - 論説・評論……………2 ページ以内
 - 討議・コメント…2 ページ以内
 - 記録・報告……………適宜
 - その他の原稿………1 ページ以内
 ただし、やむを得ず原稿の長さが規定ページ数を超過する場合には、著者の実費負担とする。また、編集出版委員会の指定するものについては、この限りではない。
7. 和文原稿は執筆要領に、英文原稿は Instructions for Contributors による。
8. 原稿は原文および投稿申込書を学会 web site (<http://www.jshwr.org/>) 上にあるリンクより電子投稿する。また、提出原稿は事故および校正に備えて必ず控えをとっておくこと。

9. 著者校正は原則として初校のみとし、誤植の訂正にとどめる。また、著者校正を経た原稿の内容に関する責任は著者にある。
10. 種別 A のうち、原著論文は10頁まで、研究ノートは6頁まで、総説は頁数制限無しで掲載料無料(解説はこれまで同様4頁迄無料)とする。論文投稿時に学生会員、および60歳以上の会員からの種別 A 原稿のうち、原著論文、研究ノート、総説への掲載料を全頁無料とする(表1)。加えて、種別 B のうち技術・調査報告は6頁まで無料とする(表2)。

表1 種別 A 掲載料一覧

| 会員種別 | 原著論文 | 研究ノート | 総説 | 解説 |
|----------|---------|--------|----|--------|
| 一般 | 10頁まで無料 | 6頁まで無料 | 無料 | 4頁まで無料 |
| 学生・60歳以上 | 無料 | 無料 | 無料 | 4頁まで無料 |

表2 種別 B 掲載料一覧

| 会員種別 | 技術・調査報告 | 論説・討論 | 討議・コメント |
|----------|---------|-------|---------|
| 一般 | 6頁まで無料 | 無料 | 無料 |
| 学生・60歳以上 | 6頁まで無料 | 無料 | 無料 |

無料頁分を超過した際には掲載料が必要である(表3)。カラー印刷については掲載料に加えて、印刷費として1頁毎に3万円を著者負担とする。カラー印刷に関しては、原稿の種別および著者の会員ステータスに関わらず著者負担とする。

表3 超過頁分著者負担分一覧

| 超過印刷頁数 | 掲載料 | 超過印刷頁数 | 掲載料 |
|--------|-----|---------|-------|
| 1頁 | 1万円 | 6頁 | 6万円 |
| 2頁 | 2万円 | 7頁 | 7万円 |
| 3頁 | 3万円 | 8頁 | 8万円 |
| 4頁 | 4万円 | 9頁 | 9万円 |
| 5頁 | 5万円 | 10頁以降1頁 | 2万円/頁 |

※カラー印刷：1頁毎に3万円著者負担とする。学生・60歳以上であっても負担が必要

別刷りは50部までは無料、それ以上は下記の計算式により、別刷り実費の著者負担が必要である。
別刷り価格(円)=(9×頁数)×(部数-50部)

50部以上の別刷り実費の著者負担は、学生会員、および60歳以上の会員からの種別 A (原著論文、研究ノート、総説) であっても必要である。

当該会員からの文書による申し出により、掲載料の支払いが困難と判断される場合には、掲載料を免除することができる。なお、免除の対象となるのは退職者および研究指導者を持たない外国からの留学生に限り、免除される範囲は超過頁分掲載料、およびカラー印刷費に限る。

11. 掲載号出版後に J-Stage にアップロードされた正規フォーマットの論文をオープンアクセスとする場合は 5 万円の著者負担によって可能とする。また、論文採択後に、簡易フォーマットにてできるだけ速やかに J-Stage 上で公開する早期公開 (EarlyView) を希望する場合は 8 万円の著者負担 (EarlyView 作業料 3 万円 + オープンアクセス 5 万円) によって可能とする。
12. 水文・水資源学会誌および電子ジャーナル (種別 A のみ) に掲載された著作物・記事の著作権および著作権は水文・水資源学会に帰属する。ただし、当該著作者の著作権および著作権の行使を妨げるものではなく、また電子ジャーナルの掲載については、著者の申し出により非公開にすることができる。なお、疑義が生じた場合は、本学会編集出版委員会で決定する。
13. 学会誌による査読者のコメントを受けて修正された原稿をプレプリントサーバに掲載してはならない。JST が運営するプレプリントサーバに掲載した原稿の学会誌掲載が承認された場合、著者はプレプリントを更新して公開した論文へのリンクを含める必要がある。
14. 編集についての問い合わせ先は下記宛とする。

〒 162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5

(株)国際文献出版社

水文・水資源学会事務局 編集出版委員会

Tel : 03-6824-9376 Fax : 03-5227-8631

E-mail : jshw-edit@as.bunken.co.jp

(2022 年 12 月 26 日改正)

執筆要領

1. 投稿原稿の性質

水文・水資源学会は国内的、国際的な水文・水資源に関する多くの専門分野の研究の横断的な発表・情報伝達機関として、各分野間の交流、相互の理解を促進する機能をもつことを目指すものである。したがって、投稿原稿はこのような目的に沿ったものであり、会員が関心をもつようなテーマを扱っていて、会員相互間に建設的な討議を引き起こすようなものが望ましい。

原著論文等が少なくとも具備すべき条件は、原則として、1) 誤りのないこと、2) 重複のないこと (未発表のもの) の二点である。

2. 投稿原稿の形式

原著論文、研究ノート、総説、解説 (以下、これらを「種別 A」と称す)、技術・調査報告、論説・評論、討議・コメント、記録・報告、書評、新刊紹介、会告、お知らせ：①投稿申込書、②表題・著者名・連絡先住所 (和文、ただし種別 A または技術・調査報告には英文も必要)、③要旨・キーワード (和文と英文、ただし、種別 A または技術・調査報告のみ)、④本文、⑤引用文献、⑥図・表・写真をそれぞれ別紙に記載する。なお、原著論文には特色ある観測・実験・調査の結果やその一次的解析結果及び統計・数値実験結果などを主とする論文も含まれ、研究ノートとは、①新しい研究方法などの紹介、②予報的速報、③既知の知見を確認する短報など、総説とは、水文・水資源学に関する特定の主題について最近の研究成果を広い視点から整理、位置づけし、その研究の流れの理解に資するもの、解説とは新しい研究・技術・工法・プロジェクトなど、会員にとって有用・有益となる情報を分かり易く提供するもの、技術・調査報告とは水文・水資源分野における技術や調査の報告で、実用性・有用性を重んじているもの、論説・評論とは、学会関連の全般的総括的問題で広く会員の参考となるものなど、討議・コメントとは種別 A に対する討議、コメント及び著者による訂正、記録・報告とは総会、研究発表会、表彰などの経過報告、およびシンポジウムなどへの参加報告、書評とはある図書の第三者 (原則会員) による推薦、新刊紹介とは新刊図書の紹介と書籍の概要を述べたもの、会告とは当学会から会員への告知事項、お知らせとは当学会以外から会員への告知事項である。

3. 原稿は、A4 判用紙にワードプロセッサを用いてダブルスペース 1 段組で作成することが望ましい。新仮名づかいにより、学術用語以外は常用漢字を用いる。原稿中に外国語を用いるのは、その必要性がある場合に限る。原稿には必ずページ番号を記入し、余白に文章全体に通しの行番号を打つこと。英文原稿については Instructions for Contributors を参照すること。

4. 単位は、国際単位系 (SI 単位) を用いるものとする。ただし、従来単位系を用いる場合は、SI 単位を括弧書きすること。

5. 章・節・項の見出しは、下記によることとする。

章 I ., II ., III .

- 節 1., 2., 3.
項 1), 2), 3)

6. 脚注は, *, **, の記号で示し, 原稿の最後に記載する.
7. 分数式は, 必要に応じて2行以上のスペースをとる.
8. その他の専門分野での特殊な用語, 記載法については, その分野で用いられている記載法による.
9. 図・表・写真は別紙とし, その表題にはそれぞれ通し番号を図-1のようにつけ, 刷り上がりが1ページ以内になるように, 縮尺を考慮して鮮明なものを作成する.
それぞれの挿入の位置は, 本文中の欄外に朱記する. また, 図・表・写真それぞれの題目, 説明等には和文, 英文を併記すること.
10. 種別Aまたは技術・調査報告の原稿については, 和文・英文の要旨を和文500字以内, 英文250ワード以内で作成する.
11. キーワードと引用文献の書き方は, 「キーワードと引用文献の書き方」を参考にすること.

(2021年10月6日改正)

キーワードと引用文献の書き方

キーワード

1. いずれの場合にも, 原稿には和英併記で5個以内のキーワードを記載すること.
2. 英文キーワードについては, 以下の例を参照されたい.

例1: water resources, southeast Asia, Asian countries
固有名詞等を除いて, 必ず小文字で書き始める. また, 不定冠詞 [a, an] や定冠詞 [the] は使用しない.

例2: Amazon River, Tibetan Plateau, Alps, Great Lakes
河川, 海洋, 海峡, 運河, 半島, 山脈, 群島の名称等は以下のとおり. 英文でのタイトル・要旨・本文では, the Amazon River, the Tibetan Plateau, the Alps や the Great Lakes と記述するが, 英文キーワードでは, 定冠詞 [the] を省略する.

例3: United States, United Kingdom
複数の国名は以下のとおり. 英文タイトル・要旨・本文では, the United States や the United Kingdom と記述するが, 英文キーワードでは, 定冠詞 [the] を省略する.

引用文献

1. 引用文献 (この場合, 本文中で引用することを

想定している, また, ウェブページ等を含む) は, 和文文献・英文文献を一緒にして, 著者名のアルファベット順に記載することとし, 本文中においては (著者名, 発行年) の形で引用する. 同一著者名, 同一発行年の場合は, a, b... で区別する. 複数の文献を本文中の同一箇所でも引用する場合は; で区切る. 本文中では Chaw *et al.* (1988) のように, *et al.* はイタリックとする.

2. 欧文の引用文献については, Instructions for Contributors を併せて参照のこと.
3. 下記の例を参考にすること.

○論文等: 基本的に, 著者名, 発行年, 論文名, 掲載誌名, 巻名, ページの順とする. DOIがある文献は, それを入れること (DOIがない場合は省略可). 掲載誌などの名称はフルネームで書くこと. 参考文献の巻, 号については, 巻数と通しページ (一つの巻を通して付されているページ) を表記することを原則とする.

例1: 和文論文 (巻数と通しページがある場合)

生田理弘・大熊 孝・大川秀雄・神立秀明・中村一郎 1991. 河川水温と気温等の相関に関する研究. 水文・水資源学会誌 4: 39-45. DOI: 10.3178/jjshwr.4.39.

例2: 和文論文 (通しページが無く, 巻・号を併記する場合)

真下育久 1973. 森林土壌の土色と炭素含量. 森林立地 14 (2): 24-28. DOI: 10.18922/jjfe.14.2_24.

例3: 英語論文 (ページ番号の代わりに論文番号が掲載されている場合は, ページ番号の箇所に論文番号を掲載すること. Instructions for Contributors を併せて参照のこと)

Nakayama M, Fujikura Y. 2006. Issues in WCD report development - inconsistencies between fact-findings and guidelines. *Hydrological Processes* 20: 1263-1272. DOI: 10.1002/hyp.6090.

例4: 学位論文

大西暁生 2006. 黄河流域の社会経済・生産活動と水資源需給空間構造の把握に関する研究. 名古屋大学大学院環境学研究科博士論文; 178.

○図書等:

例5: 和書 (参照した部分が限られている場合)

本間 仁・安芸皎一 1962. 物部水理学. 岩波書店; 185-204.

例6: 和書 (全体を参照した場合, 参照ページの代わりに総ページ数を書く)

丹保憲仁 1980. 上水道. 新体系土木工学 (土木学会

編), 技報堂; 370.

例7: 和書 (特定の章の執筆者が, 編者と異なる場合. 章にタイトルがある場合はそれを挙げる)

鈴木雅一・服部重昭 1992. 森林地の蒸発と蒸散. 森林水文学 (塚本良則編), 文永堂出版; 53-102.

例8: 和書 (特定の部分を参照するが, その部分の執筆者が著者と同じ場合)

近藤純正 2000. 地表面に近い大気の科学. 東京大学出版会; 82-84.

例9: 洋書 (総ページを書く例と参照部分を書く例)

Chow VT, Maidment DR, Mays LW. 1988. *Applied Hydrology*. McGraw-Hill: Boston; 572.

Gupta VK, Waymire EC. 1998. Spatial variability and scale invariance in hydrologic regionalization. In *Scale Dependence and Scale Invariance in Hydrology*, Sposito G (ed). Cambridge University Press: Cambridge; 88-135.

○ ウェブページ等: 「著者名 発表年. “ウェブページの題名”, ウェブサイトの名称, (可能であれば更新日付を書く), URL (参照した日付) を表記する.

「ウェブページの題名」とは, 引用したページに見出しとしてつけられている名称を指す. 「ウェブサイトの名称」は, そのページ内から, 「トップページ」,

「ホーム」などの名称でリンクされているトップページに見出しとしてつけられている名称を指す. このあたりは, 著者の判断に任せざるを得ない. 下記の例10の場合, ウェブサイトの名称として「SIST 科学技術情報流通技術基準」を用いているが, 「独立行政法人科学技術振興機構」と考えてもよい. ウェブページを引用する際の発表年は, 当該ページに更新日付が明記されている場合はその年を, 明記されていない場合は著者が参照した年とする. 同一著者名, 同一発表年の場合は, a,b...で区別する. 更新日がわかっている場合は記述すること. わからない場合は, 特に記述しなくて良い. ただし, 参照年月日は必ず記述すること.

例10: 更新日を表示しない場合

科学技術振興機構 2020. “科学技術情報流通技術基準 参照文献の書き方”, SIST 科学技術情報流通技術基準, https://jipsti.jst.go.jp/sist/handbook/sist_02_2007/main.htm. (参照: 2020/11/24).

例11: 更新日がわかっていて表示する場合

日本地球惑星科学連合 2015. “2017年におけるJpGU-AGU共同大会開催について (プレスリリース)”. 日本地球惑星科学連合, 2015/12/25, <http://www.jpгу.org/news/2015/1546/>. (参照: 2020/11/24).

(2024年7月22日改正)

Instructions for Contributors

1. One of the contributors to the Journal of Japan Society of Hydrology and Water Resources is required to hold membership in the Japan Society of Hydrology and Water Resources, except for invited manuscripts.
2. Manuscripts must be written in Japanese or English. In principle, manuscripts for peer-review processes should be original and should not have been submitted elsewhere other than as abstracts.
3. Original research articles up to 10 pages and technical notes up to 6 pages will be published free. Extra page charge fees are needed for ¥10,000 per extra page (1 to 9 extra pages) and ¥20,000 per extra page (more than 10 extra pages). In addition, authors will charge ¥30,000 for color printing per page. Full-page publication fees for original research articles and technical notes are waived for student members and members aged 60 or older at the time of paper submission. Still, a color page charge will be needed.
4. Authors should be requested to pay the printing charge at the following prices (50 reprints are offered to authors without charge). Authors, who have a membership, can apply for exemption from the printing charge, attaching a note on the reasons. This rule applies to retired persons and international students with no academic supervisor.
5. Authors are responsible for reading the first galley proofs. Any changes from manuscripts will be charged.
6. The original manuscript should be uploaded at a subpage of the webpage of the society, <http://www.jshwr.org/>. Any question should be sent to the Editorial- publishing committee of the Japan Society of Hydrology and Water Resources, c/o International Academic Printing Co. Ltd., 358-5 Yamabuki-Cho, Shinjuku-Ku, Tokyo 162-0801, Japan. E-mail: jshw-edit@as.bunken.co.jp Authors are expected to submit an electronic file in which the manuscript is saved after acceptance.

(Revised in 26th December 2022)

Writing Manuscripts

1. Manuscripts should be arranged as follows: (1) Contribution form, (2) Title of paper, Author's name (fullname) and Address (Japanese and English), (3) Abstract and Key Words (Japanese and English), (4) Text, (5) Literature cited, (6) Tables, Figures and Photographs. Abstract should not exceed 500 letters for Japanese and 250 words for English. For the style, consult recent issues of the Journal.
2. Manuscripts should be typewritten with double spacing throughout and margins about 3 cm on all sides. The line numbers should be printed on the margin. The location of tables and figures in the text should be indicated with red ink in the right margin.
3. Tables, figures and photographs should be numbered with Arabic numerals, respectively. Each of these should be prepared individually on a separate sheet.
4. References should be listed alphabetically. For the style, consult examples given below and recent issues of the Journal. References in the text may be cited by author's surname and year of publication in parenthesis after the statement concerned. If there are more than two authors, citations should quote the surname of the first author with the word "et al." All names should be included in the list.

Examples

- Iwai S, Ishiguro M. 1979. *Applied Hydrologic Statistics*. Morikita: Tokyo; 324 (in Japanese).
- Nakao H. 1976. *Forest Hydrology*. Kyoritu: Tokyo; 129-135.
- Randall D, Houck MH, Wright JR. 1990. Drought management of existing water supply system. *Journal of Water Resources Planning and Management* 116(1): 1-20. DOI: 10.1061/(ASCE)0733-9496(1990)116:1(1).
5. All pages of the manuscript including tables, figures and photographs should be numbered consecutively.

(Revised in 6th October 2021)